

## カービュー マーケットウォッチ (2013年2月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：兵頭 裕）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

### 軽乗用車と海外メーカー製輸入車は5.0%増、9.9%増と堅調

13年 1月順位	12年 12月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	アクア	トヨタ	22,466
2	(2)	→	プリウス	トヨタ	17,733
3	(3)	→	ノート	日産	14,529
4	(4)	→	フィット	ホンダ	8,834
5	(8)	↑	セレナ	日産	8,010
6	(9)	↑	ヴィッツ	トヨタ	5,822
7	(6)	↓	フリード	ホンダ	5,656
8	(29)	↑	クラウン	トヨタ	5,327
9	(7)	↓	カローラ	トヨタ	4,832
10	(10)	→	ステップワゴン	ホンダ	4,659
11	(5)	↓	インプレッサ	スバル	4,392
12	(15)	↑	デミオ	マツダ	4,068
13	(12)	↓	スペイド	トヨタ	3,805
14	(13)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	3,692
15	(11)	↓	フォレスター	スバル	3,012
16	(18)	↑	ヴォクシー	トヨタ	2,919
17	(16)	↓	パッソ	トヨタ	2,896
18	(17)	↓	ポルテ	トヨタ	2,736
19	(14)	↓	スイフト	スズキ	2,448
20	(20)	→	CX-5	マツダ	2,410

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ  
 ※ 輸入車および軽自動車を除く

## カービュー編集部独自の分析

### ■乗用車全体では7.4%減で2カ月連続のマイナス

### 軽乗用車と海外メーカー製輸入車は5.0%増、9.9%増と堅調

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した1月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は33万2066台で、前年同月比は92.6%（貨物車、バスを含む新車総販売数は38万3499台、前年同月比92.2%）と、2カ月連続で前年を下回った。ただ昨年1月はエコカー補助金の開始直後で、11年1月比38.4%増と高水準の売れ行きだった反動減という一面もあり、リーマン・ショック前の08年1月比では3.8%増だから、順調な新年のスタートともいえそうだ。

日本自動車工業会（自工会）は今年の新車販売見通しを昨年実績に対し、11.7%減となる474万4000台（乗用車のみでは12.9%減の398万4000台）と発表しているが、各メーカーとも補助金効果による反動減を新車投入や販促施策でどこまでカバーできるかが注目される。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（輸入車扱いの日産マーチ2348台、日産ラティオ670台、三菱ミラージュ1375台を含む）は19万1938台で、前年同月比は85.1%と大幅減。一方、軽乗用車は12万5521台で前年同月比5.0%増と16カ月連続の前年超、海外メーカー製輸入車も1万4260台で同9.9%増と9カ月連続で前年を上回った。

メーカーブランド合計では前年同月比70.5%増と絶好調の斯巴ルとレクサス、日産、三菱以外は前年を下回り、特にホンダは2万951台、同52.6%減と大きく落ち込み、「N BOX」が売れている軽乗用車を含めた乗用車計でも12.8%減にとどまった。月間ランキングでは、「トヨタ アクア」が2万2466台で4カ月連続トップ、軽乗用車を含めた乗用車全体でも4カ月連続トップとなった。2~4位の「トヨタ プリウス（α含む）」、「日産 ノート」、「ホンダ フィット（シャトル含む）」も4カ月連続で変動なしだが、8位には「トヨタ クラウン」が前月29位からジャンプアップしている。

軽自動車は貨物車を含めた全体でも15万4166台、前年同月比101.0%で、1月単月としては過去最高を記録。車名別では「ホンダ N BOX（+含む）」が2万552台で4カ月連続トップ。12月にマイナーチェンジした「ダイハツ ムーヴ（コンテ含む）」は前年同月比22.5%増の1万5175台で2位に上がってきた。

輸入乗用車は日本メーカー製を含めれば1万9000台で、前年同月比は12.6%増までアップする。海外メーカー製ブランド別乗用車ランキングでは、VW（フォルクスワーゲン）が4116台で前年同月比24.5%増でトップを奪還。2位メルセデス・ベッツは2330台で同8.3%増、3位BMW（ミニを除く）は2011台で同2.4%増、4位アウディは1931台で同1.3%増、5位はミニ822台で同4.1%増と上位5ブランドはしっかり前年超と好調をキープしている。

## ■ココも気になる！ その1

### トヨタグループが過去最高記録で2年ぶりのトップに

昨年の国内の新車総販売台数は4年ぶりに500万台を突破の536万9721台、前年比27.5%増と好調だった。メーカーブランド別ではトヨタが164万6409台、前年比42.3%増でトップ、2位ホンダ74万5205台、同48.0%増、3位ダイハツ67万7171台、同23.5%増、4位スズキ67万3138台、21.7%増、5位日産65万9855台、同11.6%増と、いずれも明確な回復基調を示す結果となった。

世界市場でも日本メーカーは好調で、ダイハツ、日野を含むトヨタグループが974万8000台、前年比22.6%増で2年ぶりにトップを奪還。2位はGMグループで928万8300台、同2.9%増、以下3位VWグループ907万台、同11.2%増、4位ルノー・日産グループ（ロシアのアフトワズ含む）810万1300台、同0.9%増、5位ヒュンダイグループ712万台、同9.0%増がベスト5だった。

トヨタグループは東日本大震災やタイ洪水の影響で落ち込んでいた生産レベルが回復し、国内で35%増の241万2000台、海外でも19%増の733万6000台を売り上げ、トヨタ単体では海外販売が19%増の702万5000台と、初めて700万台に到達した。このほか、国内2位の座を奪取したホンダは世界市場でも勢いを堅持し、381万7000台、同19.0%増の8位となり、前年9位よりワンランクアップしている。

ただ自工会の需要見通しが昨年の11.7%減となるなか、トヨタも軽を含む今年の販売計画を17%減の140万台に設定するなど、厳しい市況を想定。しかし、最近の円安傾向や株式市場の上昇機運により、上方修正の動きが出てきた。昨年末にモデルチェンジしたクラウンが発売後約1カ月で月間販売目標台数4000台の6倍強となる約2万5000台もの受注を集め、さらに今秋にはカローラにも人気のハイブリッドを追加予定。No.1メーカーならではの強気の姿勢を期待したいものだ。

## ■ココも気になる！ その2

### 12年輸入車年間ランキングをチェック！

輸入車の販売データを集計している日本自動車輸入組合（JAIA）から、車名別年間ランキングが発表されたので、海外メーカー製乗用車についてベスト10を紹介しよう。

1位は「VW ゴルフ」シリーズで2万2252台（前年比85.2%／前年ランキング1位）、以下、2位「BMW ミニ」シリーズ1万6212台（同113.0%／同3位）、3位「メルセデス・ベンツ Cクラス」1万5479台（同132.2%／同4位）、4位「VW ポロ」1万4442台（同95.2%／同2位）、5位「BMW 3シリーズ」1万1107台（同124.6%／同6位）、6位「BMW 1シリーズ」1万436台（同197.7%／同10位）、7位「ボルボ S60/V60/XC60」8065台（同133.7%／同8位）、8位「メルセデス・ベンツ Eクラス」7898台（同93.9%／同7位）、9位「BMW 5シリーズ」7265台（同78.5%／同5位）、10位「メルセデス・ベンツ Bクラス」6671台（同217.9%／同17位）となった。

ゴルフはモデル末期となったことで前年割れだったが、25年連続でトップの座を守った。またメルセデスCクラスやBMW1シリーズ、メルセデスBクラスといったモデルチェンジ組が順調に順位を上げ、昨年2月発売の「アルファロメオ ジュリエッタ」も3454台で20位にランクイン。このほか、昨年初のベスト10入りを果たしたボルボ60シリーズ（S60/V60/XC60の合計）が前年比33.7%増と好調をキープしているのも注目される。

今年は先陣を切った「メルセデス・ベンツ Aクラス」をはじめ、すでに先行予約受付が始まっている「ボルボ V40」やプジョー初のミニバンとなる「5008」、そして6月とも噂される新型ゴルフなど、リーズナブルなニューモデルが目白押し。特に昨年好調だったBMW1シリーズと新型Aクラス、新型V40、新型ゴルフがガチンコ勝負になりそうなプレミアムコンパクトクラスが輸入車ファンならずとも話題になりそうだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 管理本部 広報担当（ [pr@carview.co.jp](mailto:pr@carview.co.jp) ）  
tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180

---